



まつど未来づくり会議
～松戸の強みを活かした未来への指針づくり～

福祉分科会

発表用資料

イマジンまつど
～私たちの明るい未来をつくる～

平成21年11月7日（土）

分科会委員

- 荒 久美子
- 海老原 寛子（分科会長）
- 鎌田 啓作（副会長）
- 古宮 保子
- 峪 二葉
- 百田 清美
- 文入 加代子
- 細田 香苗
- 三木 京子
- 村島 隆一
- 石井 久雄
- 林 総太郎



開催状況



- **第1回**：平成21年8月7日（金）17時10分～19時
- **第2回**：平成21年8月28日（金）9時～12時
- **第3回**：平成21年9月25日（金）9時～12時
- **第4回**：平成21年10月16日（金）9時～12時30分



目指したい姿の宣言文:

一人一人が目的を持ち、一日を過ごすこと
して、生きがいのある暮らしを生み出す

日々大切にすることとして表出する。

市民の役割:

地域で活動する
意識を持つ

地域ごとの
場づくり
フレアアップ

地域ごとの
活動の推進
など

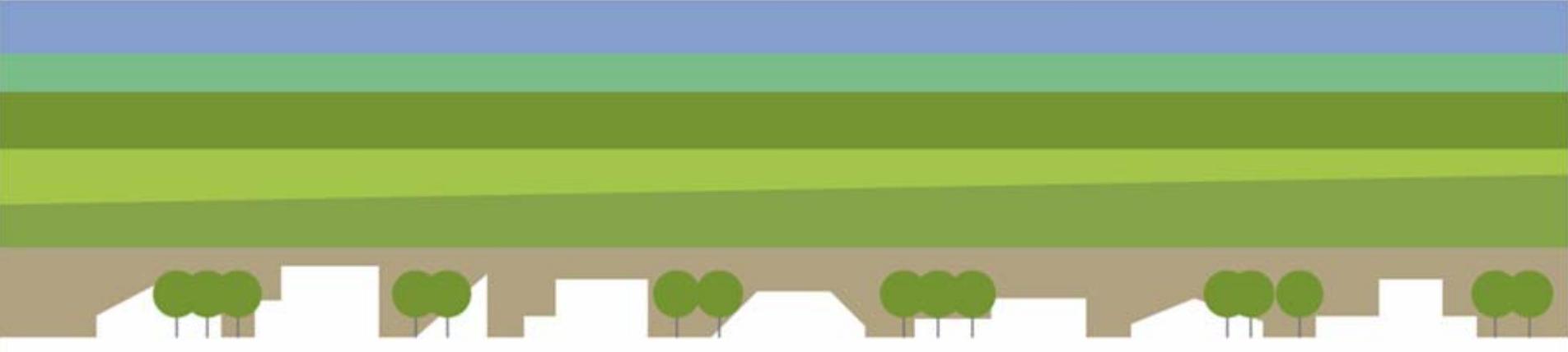
地域
活動の推進
など

地域
活動の推進
など

自分たちの
活動の推進
など

第2節 豊かな人生を支える福祉社会の実現

1. 健康に暮らすことができるようにする
2. 病気や障害、高齢などを理由に生活に支障があっても、自立した生活が送れるようにする
3. 安心して子どもを産み、健やかに育てることができるようにする
4. 市立病院として高度で良質な医療を提供する



健康に暮らすことができるように
にする

目指したい姿の宣言文



自らの健康に関心をもち社会参加することを通して、一人一人が目的を持った生きがいのある暮らしを生ま出す

指標案

- **健康づくりに関する市民団体からの提案数（助成事業の実施）**
- **人が集う場の数**
- **多様な世代との交流の場の数（生きがいのある暮らし）**
- **東京で働いていた人が（特に男性）、地域の活動に参加する人数**
- **医療費が少なくなる**

市民の役割



- **自分がどう生き、どう老い、どう死ぬかを常に意識し検証する**
- **「他の人を助ける」ことが、自分をも助けることになるという考えにたち、生活する地域で生活する意識を持つ**
- **地域ごとの場づくりとグループづくり**
- **商店の活性化を図り、会話のはずむ店を作る**
- **目的、関心など共通するグループ作り**
- **特技、趣味を生かした社会参加**

市民の役割



- 市民一人一人が自分の健康を自覚する
- 健康づくりに公園を活用できるようにする
- 個々の現状に合った運動の継続（グループ等で）

行政の役割



- **老いや死のモデルを提示し、それを実現するサービスを提供する**
- **住民の自治活動を支援する**
- **地域の活動を発表できるネットワークづくり**
- **長期的に社会参加がしやすい施策を考える**
- **地域ごとに居場所の核（拠点）をつくる**
- **無料の遊び場（たまり場）をたくさん提供する**
- **交流の場・ネットワークの情報発信**



**病気や障害、高齢などを理由に
生活に支障があっても、自立し
た生活が送れるようにする**

目指したい姿の宣言文

どう生きていか、どう老いるかを考えて、個人の尊厳を保ちながら生きるために、誰もが不安なく自立した生活を送れるようにする

指標案



- 訪問医療の充実とその情報
- ホームドクター（かかりつけ医）を持つ人の割合
- 引きこもりの人数（減）
- 生活保護者数（減）

市民の役割

- ご近所ネットワークづくり
- 子育てを楽しめるよう、主婦（夫）も地域デビューする
- 地域ごとに年齢、職業が様々な人々と生き方・老い方を話し合う場づくり
- ご近所さんの子どもや、色々な方たちと日ごろから挨拶などをし、気軽な人間関係をつくる
- 積極的に人と関わる
- 生き方、老い方を考え始めたとき、社会デビューをし発信する

市民の役割



- ヘルプ！の情報を外に出す
- 周囲からのSOSに適応できる生活態度を！

行政の役割



- 適切な支援（専門的なサポート）
- ウィズエイジングの考え方を広める
- 生き方、老い方フォーラムの開催
- 自立支援サービスの窓口を地域に設置する
- 病気等になった時（日常生活が困難）、どのような手順でサービスをどこで受けられるかを明示し、市民に宣伝する
- シミュレーションをつくり広報等に載せる



安心して子どもを生み、健やかに
育てることができるようにする

目指したい姿の宣言文



子どもの笑顔があふれる街にするために、生活スタイルにあわせて選択できる様々なサービスや地域ぐるみで支援する環境を整え、子育てできる松戸を実現する

指標案



- 出生率の向上
- 保育所の数
- 病児保育できる場所の数
- 市民団体が提供するサービスの数、団体の数

市民の役割



- **子どもの面倒を見る、家事のサポートができる等の、自分のできる役割や時間を登録しておく**
- **緊急時のちょっとしたボランティア（おむかえ等）**
- **多様な世代の人々との交流**
- **子どもの安全が保たれるように、地域の高齢者の助けを借りる**

市民の役割



- **社会の子どもとして、宝物として愛情を持って大切に産み育てる**
- **子育てを楽しめるよう、主婦（夫）も地域へデビューする**
- **家庭－女性が外に出やすいように家族ぐるみで協力する**

行政の役割



- **市民が提供できる役割を把握し、地域の連携がうまくできるように、コーディネーターの役割をする**
- **病児・病後児保育の充実**
- **全ての子ども達が平等にその子の夢が実現できるようサポートする**
- **全ての子ども達に権利と義務を教える（社会的に）**

行政の役割



- **子育て市民団体のアイデア募集とコンテスト、その支援**
- **地域の子どもとふれあえるイベント・フォーラム**
- **子育て情報のわかりやすい、積極的な発信をする**



**市立病院として高度で良質な
医療を提供する**

目指したい姿の宣言文



地域の医療機関や社会福祉サービス、市民ボランティアと連携し、役割を分担し、地域医療の核として、高度で良質な医療を提供する

指標案



- 病院を出た後の方向性を指針するコーディネーターの数を増やす
- 病院情報のわかりやすい情報提供（どこへ行けばよいか、何をすればよいか事前に）
- 患者数（入院・外来）
- 紹介・逆紹介率

指標案



□ 患者満足度

□ 手術件数

□ 収益率

□ 市民団体が提供するサービスの数、団体数

市民の役割



- 誰もが利用しやすい市立病院になるよう、様々な市民活動が協力する
- 患者さんの補助
- 子どもの一時保育
- 送迎（コミュニティバス等）
- 病院環境の整備
- 税金をしっかりと払う
- 近所の病院を知り、利用する（地域で主治医を持つ）
- 市立病院の役割を理解し、上手に利用する

行政の役割

- 退院時、その後の暮らしの指針をはっきりと
（コーディネーター役）
- 安定した病院経営をする
- 必要な資金や人材の確保
- 効果的なネットワークの構築
- 患者サービスの向上に取り組む市民活動と協働
する
- 在宅医療を推進する

行政の役割



- **情報提供**
- **中核病院として市民に説明し、理解を得る**

強調したい・伝えたい具体的な提案、メッセージ

□分科会の皆で共有した思い

- まずは、「どう生きたいか、どう老いるか、どう死ぬか」を市民が、考えていくことが大切。
- 地域、行政のサポートを受け、誰もが自立的した生活を送ることを目指したい。
- 行政の施策は、これまでの「百貨店型」でなく 特徴あるものを行う。成功させ、そこから拡げていくことが他の問題の解決につながる。

□具体的な提案

- ◎ 「使われていない農地」を地域交流の場づくりの核にする



例えば、矢切から始め、市内に拡がる

今回の取り組みに対する分科会長としての思い

□20代から80代まで、福祉の様々な分野から人が集結

□ 障害者や高齢者介護、女性の相談、子育て支援等、市民の目で老いを考える人やこれから子育てを始める世代まで、自分の経験や思いを旨に、深い議論を共有。

□必要な時に、必要なサービスを受けたい。そのために個人の自己決定をサポートする地域の見守り・交流やコーディネーターが必要大切なこと。

□行政も市民も個人も協力しながら、子どもの笑顔があふれる、誰もが住みやすい松戸をつくっていききたい。

□一歩として、今回であった方々とのつながりを大切にしたい。